

道央家族会報 21 号

ホームページ URL

<https://dokaren.com/do-o.html>



* 恵庭光風家族会 ～事業所めぐり part2 「牧場事業所」～

11月21日(火)に家族会広報部が「牧場事業所」に見学&取材に行ってきました。

ここは、生活介護の施設で、『穏やかな時間を過ごせる』ことを基本とし、利用者に合った軽作業や創作活動を行っているとのことでした。



軽作業には、畑での野菜作りや古紙の裁断などがあり、ゴミ袋の袋詰めのお手伝いを行う方もいるそうです。

ゴミ袋の袋詰め作業は、「就労継続支援B型」で、「牧場事業所」とは別なのですが、お手伝いなどの交流があるそうです。

みなさん慣れた手つきで作業を行っていました。



一日の予定が決まっていますが、気分に応じて柔軟に対応出来るので、ストレスなく生活できている様でした。



ただ、現在体育館をゴミ袋作業で使用しているため、ウォーキングなどの際に使えず、少し残念な気がしました。



新しくなった洗面所



個別の作業机



新しく出来た車いす用トイレ

利用者に楽しんでもらうため、時々キッチンカーに来てもらったり、ドライブやカラオケなどを行っていたりと、みなさん充実した毎日を過ごされている様でした。

今回、家族会役員5名でお邪魔したのですが、利用者みなさんが嬉しそうに迎えてくださり、こちらも嬉しくなっていました。

今後、西事業所の利用者の方たちが数名移動してくるとのことですが、今以上にぎやかで楽しい場になればいいなあと思います。

<各事業所行事の様子>

各事業所では家族会の支援費を利用して、外出や行事を楽しんでいます。



11/1 エスコンフィールド見学
(西事業所)



7/14



7/21 木下大サーカス観覧
(そだてらす)



11/8 新千歳空港
(西事業所)



9/7 あきまつり



キッチンカーに来てもらいました
(牧場事業所)

<西事業所閉鎖に伴う西事業所保護者の事業所見学会開催>

懇談会等で施設にお願いした西事業所閉鎖に伴う保護者の事業所見学会が、11月16日、17日の2日間に分けて開催されました。

とらい・牧場事業所・就労継続支援B型ふくろー・そだてらすの4カ所を見学しました。

来年度からの我が子の行き先を、皆さん真剣に見学されていました。

利用者の方々はすでに見学は済んでおり、各家庭でそれぞれ話し合い、希望の事業所へ配属されることを望みます。



とらいの選べるメニュー



牧場事業所



ふくろー



そだてらす

* ハローENJOY 施設長 内田 貴士

今期も雪が多くなりそうな気配がしています。インフルエンザ・コロナといった感染症も気候の乾燥に伴い猛威を振るってきそうです。利用者の健康管理に十分に気を付け、日々活動しておりますが、11月には数人の方がコロナに感染してしまい、不自由な生活を送ることになってしまいました。幸い重症化することもなく、日々の暮らしにみんな戻ることができております。

去る9月9日には、3年振りとなる「ハローまつり」を通常開催することができました。和太鼓の演奏、バンドの演奏、ヨサコイと盛りだくさんのステージに加え、ハロー家族会からの提供で餅撒きや抽選会を行い地域の方々、ご家族の方、利用者、職員共々楽しい時を過ごしました。ハローボランティアグループ「赤とんぼ」の方々にも焼き鳥の出店をお願いしたり、今回初めてキッチンカーも呼び食事のメニューも多岐にわたり提供することができたりして、来場された皆さんの胃袋も満足して頂けたと思っております。



また、10月28日には「開設記念行事」を社会福祉法人栗山ゆりの会の全事業所が集いご家族の方や関係者を交え、200人弱で開催しました。ハロー家族会の経費で記念講演「ENJOY 言葉の冒険・アナウンサーの舞台裏」と題し、



元 HBC アナウンサーの鎌田強氏に登壇してもらいました。ピアノ伴奏に載せて絵本の読み聞かせや、話し方、言葉の面白さ等ジョークを交えて、お話をして頂きました。堅苦しい講演会ではなく、

来場された方々が声を出したりする参加型の講演会で、利用者の方々も楽しんで参加をしていました。講演会の後は会食会と各事業所職員による余興を行い、その中で普段の事業所の活動内容をご家族の方々に報告をさせていただきました。

世間では、残念なことに福祉施設での虐待事案が後を絶ちません。北海道知的障がい福祉協会では、利用者向けのパンフレットを作成し全道の各事業所で利用者



向けの虐待に関する研修会を行ってほしいとの通達があり、ハローでも12月16日に利用者の研修会を開催しました。職員から話を始め、利用者を少人数のグループに分け、職員が中に入りグループワークをしてもらいました。利用者からは色々な意見が活発に出てきて、利用者、職員共々実りのある研修会になりました。

今後もご家族の方、利用者の方が安心して安全に過ごせる事業所運営を肝に銘じ、日々サービスの提供を行ってまいりたいと思います。

* 千歳いずみ学園保護者会 ～定期総会および研修会の開催～

今年は4年振りとなる対面での定期総会を4月に開催しました。例年は学園体育館を使用していましたが、コロナの感染防止の観点から、今年は会場を変更しての開催となりました。出席者は40名で、出された意見・要望等に対しては、役員会で検討した後、改めて回答することにしました。

9月には、同じく4年振りに保護者研修会を、ホテルを会場にして開催しました。参加者は22名で、前回の定期総会での意見・要望等に対して回答した後、子供の所属施設ごとにグループに分かれて、自己紹介や最近の子供の様子や気になること、施設への要望などテーマに沿った話し合いを行いました。

その後、「笑いヨガ」の講演を受け、心身を健康に保つための運動を一緒に体験して心地良い汗を流し、昼食をいただいて終了となりました。

* 北ひろしま福祉会 ～「医師の配置」「看取りについて」～

平成26年に法律が変更になり、「日常生活上の健康管理及び療養上の指導を必要としない施設については、看護師等による利用者の健康状況の把握や健康相談が実施されることを条件に医師の配置を行わないことが可能」となって、北ひろしま福祉会の障がい者支援施設「とみがおか」「共栄」では医師の配置をしてきませんでした。

しかし、利用者の高齢化や新型コロナウイルス等の感染症対策を踏まえて、令和6年1月1日より医師の配置をすることが決まりました。医師が月に2回施設を訪問し、利用者の健康管理及び健康相談を行います。利用者にとっては今まで以上に心安らぐ日々になりそうです。

また、北ひろしま福祉会では「利用者が住み慣れた施設で楽しく最後まで生ききる」を支援する取り組みを行っています。従来の「看取りの概念」を一新するものです。

さらに、「看取り援助推進委員会」のスタッフが道家連と連携して、希望する各地区の事業所での勉強会や研修会も行っています。多くの方々と「最後まで生ききる」を支援する取り組みを共有したいと願っています。



** 編集後記 **

「道央家族会報21号」は、今回も施設長、職員、家族会役員、一人ひとりのご協力により発行することができました。本当にありがとうございました。